

第15回 在宅や施設での ワクチン接種で ケアマネがすべきこと



秘
ここだけの話

長尾和宏の 在宅介護を 快適にする 極意

在宅医だから
伝えたい！



執筆▶長尾和宏
医学博士。長尾クリニック院長。公益財
団法人 日本尊厳死協会副理事長、関西
国際大学客員教授。日本慢性期医療協
会理事他。ベストセラー『「平穏死」10
の条件』など著書多数。

個別接種か、集団接種か

6月に入り、高齢者への新型コロナワクチンの優先接種が本格化しています。7月末までに接種を完了できる見込みが立った自治体は、6月中にも「基礎疾患のある人や一般の人への接種を開始してもよい」との通達が出て、各自治体の首長の采配で地域の実情に応じた接種体制が工夫されるでしょう。さらに、高齢者の定義についても65歳、70歳、75歳、80歳、85歳……と各自治体で見事にバラバラです。今後かなりの自治体格差が出そうです。しかし各自治体の個別性に依りて、迅速性と安全性と効率性を勘案した接種が進められることになるでしょう。

高齢者に対する「かかりつけ医」における個別接種は、東京都豊島区や和歌山県などがモデルになり積極的に進められています。足腰が悪く、遠くの会場まで打ちに行けない高齢者には「個別接種」が喜ばれています。介護タクシーでの送迎には、ケアマネの協力が不可欠です。自治体と医師会と薬剤師会がしっかり連携することが個別接種のポイントになります。デイサービスやショートステイとワ

クチン接種の調整はケアマネさんに頼るしかありません。

しかし、今後、かかりつけ医がない元気な高齢者や、一般の人への接種においては、個別接種よりも集団接種を主体にすべきと考えます。市長が医師である福島県相馬市など、個別接種はゼロで集団接種のみという自治体もあります。

集団接種の利点はたくさんあります。

1) 歯科医師、看護師、救急救命士、臨床検査技師などの打ち手が確保しやすい。医師は問診と急変時の対応など監督業務に専念できるので多数の人に打てる。2) 万一、アナフィラキシーショックが起きたときも専任スタッフが多いので迅速な対応が可能。3) 余剰ワクチンなどの無駄が少ない。4) ワクチンの準備に薬剤師や看護師を活用できる。5) 早朝から

深夜まで行えるので多くの人に接種できる、などです。

接種会場として体育館や市民会館などのイベント会場、サッカースタジアムやドーム球場、大学などが協力を申し出ています。今後、集団接種会場に、医師や看護師などの接種スタッフが2~3交代で出務する集団接種がメインになるでしょう。ケアマネさんは心理的サポートや送迎や状態観察に携わります。

介護スタッフとケアマネへの接種は？

高齢者が優先接種の対象になりましたが、施設入所者への接種には多くの課題があります。特別養護老人ホーム、老人保健施設、有料老人ホーム、認知症グループホーム、サービス付き高齢者住宅などに入所して